

平成29年3月期 第72期 業績概要 第2四半期

桂川電機株式会社

当第2四半期連結累計期間(平成28年4月～平成28年9月)における我が国の経済は、雇用環境は底堅く推移し経済対策を下支えに力強さは欠きながらも緩やかな回復基調を維持し、個人消費も底打ちの兆しが見られましたが、急速な円高による企業収益の悪化や海外経済の減速等による企業収益の下振れへの警戒感は根強く、景気の先行きは不透明な状況で推移いたしました。

世界経済は、米国経済は設備投資の弱さが見られたものの、雇用環境が引き続き堅調で個人消費を中心に底堅く推移し、欧州経済は英国のEU離脱問題により懸念された世界経済への影響が限定的でしたが、金融不安や地政学リスクは顕在化し、アジア経済は中国経済の減速感が鮮明になり足踏み状態が続くなど、依然として先行き不透明感が払拭されない状況で推移いたしました。

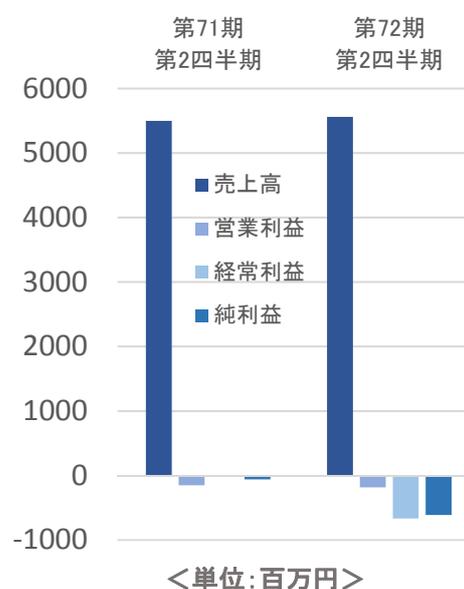
こうした中、当社グループにおきましては、販売面においては北米市場を中心に注力し、欧州市場の事業収益の改善に向けて販売体制を整備する等の活動を展開、開発及び生産面においては付加価値の高い新製品の開発と経費削減を進めてまいりました。

この結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の連結売上高は、モノク口機の販売は低迷となりましたが、新製品のカラー機の販売が順調に伸びたことにより55億60百万円と前年同四半期に比べて62百万円の増収となりました。営業損益は販売費及び一般管理費の削減効果はありましたが、売上原価率の悪化により1億84百万円の営業損失(前年同四半期は1億51百万円の営業損失)、経常損益は急激な為替相場の変動による為替差損5億円の計上が大きく影響したことにより6億67百万円の経常損失(前年同四半期は2百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純損益は、6億74百万円の損失(前年同四半期は61百万円の損失)となりました。

連結業績概況

<単位:百万円>

項目	第71期 第2四半期	第72期 第2四半期
売上高	5,497	5,560
営業損益	△151	△184
経常損益	△2	△667
親会社株主に 帰属する 四半期純損益	△61	△674



営業外損益

営業外損益は急激な為替相場の変動による為替差損5億円の計上が大きく影響したことにより483百万円の損失となりました。

<単位:百万円>

	第71期 第2四半期	第72期 第2四半期
営業外収益合計	177	40
営業外費用合計	27	523
営業外損益	150	△483



※取引通貨レートの数値は、各決算期末日のTTMLレート
【出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティング】

事業別の業績

画像情報機器事業

画像情報機器事業の当第2四半期の連結売上高は、前年同四半期に比べて60百万円増収の54億71百万円(前年同四半期は54億11百万円)となり、営業損益は、1億69百万円の損失(前年同四半期は1億46百万円の損失)となりました。

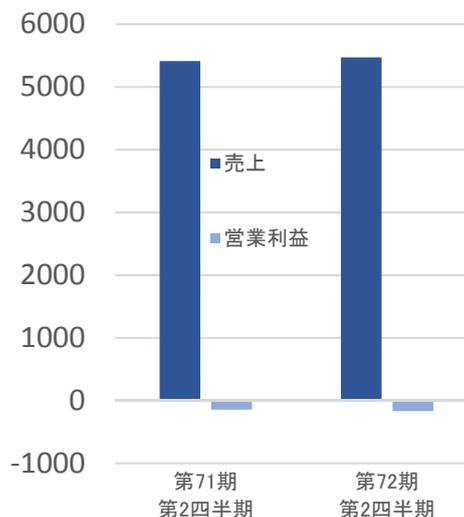
- ・売上高は昨年同時期と比べて60百万円の増収
- ・昨年発売のKIP800シリーズの売り上げが好調 (従来のカラー機と比べ大幅な出荷台数の伸び)
- ・経費節減の効果はあったものの売上原価率の悪化に苦しむ

今後の課題

- ・モノクロ機の業績の回復
- ・初期投資費用の早期回収

<単位:百万円>

	第71期 第2四半期	第72期 第2四半期
売上	5,411	5,471
営業損益	△146	△169



その他事業

その他事業のモーションデバイス事業の当第2四半期の連結売上高は、前年同四半期に比べて3百万円減収の89百万円(前年同四半期は86百万円)となり、営業損益は、15百万円の損失(前年同四半期は5百万円の損失)となりました。

- ・モーションデバイス事業の販路拡大を継続
- ・マイクロモータ等を主体に顧客ニーズをキャッチアップした製品開発・品質向上に注力

<単位:百万円>

	第71期 第2四半期	第72期 第2四半期
売上	86	89
営業損益	△5	△15

